

うらとえし
浦添市とは

浦添市は沖縄本島南側に位置し、市域の東側は丘陵地で西側に向かって緩やかに傾斜し海岸へ続いています。面積は約19km²、人口は約11万5千人（2023年3月）を数えます。

浦添では約6,600年前の土器が見つかっており、この頃までには浦添で人が暮らしていたことがわかります。沖縄本島が山北、中山、山南の三つの勢力に分かれていた13～14世紀には中山の都があったといわれ、「津々浦々を襲う（支配する）」が浦襲【うらおそい】となり、浦添【うらそえ】の語源とされています。





琉球交易港図屏風 19世紀 浦添市美術館 市指定文化財

浦添市と日本遺産

2019年5月20日、沖縄県（那覇市・浦添市）のストーリー
琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と
「泡盛」、そして「芸能」が文化庁の日本遺産に認定されまし
た。

浦添は琉球王国の礎を築いたとされる歴史ある地域で、浦
添城跡など多くの歴史遺産があります。また、浦添市美術館
では王国時代の琉球漆器、国立劇場おきなわでは琉球舞踊や
組踊が上演され、その普及・継承・保存・研究活動が行われ
ています。浦添市ではさまざまな有形無形の文化財や歴史と芸
術に出会えます。

日本遺産のストーリーを構成する文化財は、浦添市 11 件、
那覇市 14 件、共通 5 件です。（2023 年 3 月現在）

浦添市内の日本遺産関係文化財の所在地については、前ペ
ージの「文化財 MAP」とその関連ページをご覧ください、お
出掛け下さい。

日本遺産の詳しい情報は文化庁の [日本遺産ポータルサイト](#)
や [浦添市](#) ホームページをご覧ください。

ストーリーを構成する文化財

浦添市

伊祖城跡 伊祖の高御墓 浦添城跡 牧港テラブのガマ
浦添ようどれ 浦添城の前の碑 中頭方西海道（尚寧王の道）
玉城朝薫の墓（邊土名家の墓） 琉球交易港図屏風
朱漆山水人物箔絵東道盆他 43 件（琉球漆器）
向姓家譜（邊土名家）

那覇市

旧首里城正殿鐘（万国津梁の鐘） 首里城跡 識名園
首里城書院・鎖之間庭園 首里城銭蔵跡 御茶屋御殿跡
久米村周辺の史跡・旧跡 那覇港周辺の旧跡
上天妃宮跡の石門 久米村 600 年記念碑 天使館跡
御冠船料理 琉球泡盛 桔餅（きつぱん）

浦添市・那覇市

清明祭 ウサンミ（お供え物） 豆腐よう 琉球舞踊 組踊

国指定史跡 浦添城跡 うらそえじょうあと



13 世紀末に造られたグスクで、中山（沖縄本島中部）を勢
力下におく支配者の拠点と考えられています。14 世紀後半か
ら 15 世紀前半ころには大規模なグスクになりました。政権拠
点が首里城に移った後の 16 世紀には第二尚氏第 3 代しょうしんおうの尚眞王
の長男である尚維衡しょういこうが住み、それ以降は彼の子孫が屋敷を構
えていたようです。しかし 1609 年の薩摩侵入の時に焼け落ち
てしまいました。1945 年の沖縄戦ではグスクがある丘陵は
前田高地（米軍にはハクソー・リッジ）と呼ばれ日本軍の陣
地となったことから激戦地となり、残っていた石積み城壁な
どが失われてしまいました。

復元された石積み城壁



8

浦添ようどれ うらそえようどれ



浦添城跡内にある王の墓で、別名を「^{ごくらくりょう}極楽陵」といいます。13世紀に造られた英祖王（在位1260～1299）の墓といわれており、1620年に^{えいそおう}尚寧王（在位1589～1620）により改修されました。

崖にある二つの横穴を石積みで塞いで墓室にした墓で、さらに周囲を石積みで囲っています。墓室は西側（向かって右）の西室が英祖王陵といわれ、東側の東室に^{しょうねいおう}尚寧王と彼の一族が葬られています。墓室には骨を納めるための石製の厨子（^{ずし}P. 10）が安置されています。

「ようどれ」とは琉球の言葉で「^{ゆうなぎ}夕凧」を意味しており、その静かで穏やかなイメージから「墓」の意味に用いられているといわれています。

墓室内部は非公開ですが、「浦添グスク・ようどれ館」（P.36）に西室内部を再現しています。

左：尚寧王陵 右：英祖王陵



県指定文化財（彫刻）

浦添ようどれ石厨子

うらそえようどれいしずし



浦添ようどれには厨子と呼ばれる、洗骨した骨を納める蔵骨器（^{ぞうこつぎ}）が東西二つの墓室に全部で10基ありますが、このうち西室の3基と東室の1基が県の文化財に指定されています。

この4基は中国福建省産出の輝緑岩で作られていると推定されています。瓦葺きの建物を模した形で、仏像や蓮華、牡丹、^{きりよくがん}毘鹿、毬で遊ぶ獅子、馬や鹿などが浮き彫りで彫刻されています。輝緑岩製の石厨子としては古い形をしており、特に仏像は沖縄に現存する最古級のものです。

石厨子の精巧なレプリカ（模型）が「浦添グスク・ようどれ館」（P.36）で見学できます。

中頭方西海道

琉球王国時代に首里王府からの命令伝達や租税の^{しゆくみち}上納に使われた宿道^{くうじみち}と呼ばれる幹線道で、公事道ともいいます。

中頭方西海道は首里城を起点として浦添を経由して読谷に至るルートで、さらに北の恩納や国頭方面をつなぐ主要道路でした。

1597年建立の「浦添城の前の碑」によれば、尚寧王の命令により首里平良と浦添城をつなぐ道を拡張し平良橋を木橋から石橋に架け替え、道に石畳を敷く国家的大土木工事を行ったことが分かります。

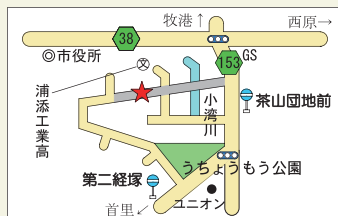
現在は安波茶橋とその周辺に石畳道が残されています。橋の下流側には、赤い皿(椀)で水を汲んで国王に差し上げたといえられる赤皿ガーがあります。



安波茶橋は石造のアーチ橋で、小湾川に架けられた南橋と、支流のアブチ川に架けられた北橋があります。

所在地 | 安波茶、経塚

アクセス | バス番号 191, 391 系統「茶山団地前」下車徒歩 2 分
モノレール「浦添前田駅」下車徒歩 15 分

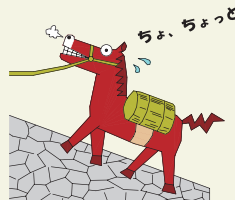


普天満参詣道



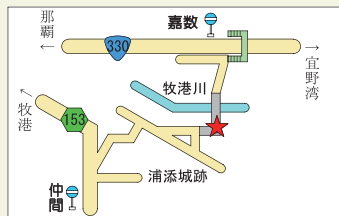
中頭方西海道から分かれて^{ふてんまぐう}普天満宮へ通じる道で、宜野湾間切が新設された17世紀後半に整備されたと考えられます。毎年、国王はこの道を通って普天満宮に参詣しました。

牧港川の流れる谷間に長さ約200mにわたって幅3mの石畳道が残っています。このあたりの道は馬が転ぶほど勾配が急なことから「馬転ばし」、「馬ドゥーケーラシ」と呼ばれていました。川に架かる橋は大正・昭和時代に改築されました。



所在地 | 当山

アクセス | バス番号 55 系統「仲間」下車徒歩 12 分
バス番号 21, 88, 90, 98, 190 系統「嘉数」下車徒歩 9 分



尚寧王の道をたどる 歴史の道ぶらりルート

約400年前に尚寧王によって整備された浦添と首里を結ぶ琉球王国時代の街道をあるくルートです。

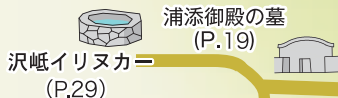
国の史跡である中頭方西海道を含み、街道沿いに残る多くの文化財をみながら歩くことができます。



浦添グスクの南側斜面では、石畳道を復元整備しています。



道路や歩道の一部に、目印として石畳の表示をしています。



浦添御殿の墓
(P.19)

王様が道すがら
休憩した広場

七番毛

ニシヌヒ
(北の坂)

フェーヌヒラ
(南の坂)

中頭方西海道

わかりやすいように
石畳や道の色を変えた
舗装がされているよ

天目山

経塚の碑
(P.25)

赤皿ガ—
(P.11)

(P.11)
安波茶橋

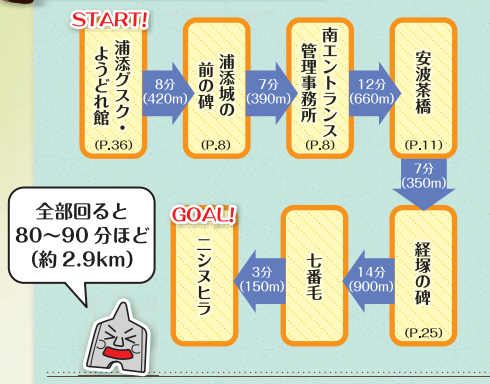
〒
郵便局

方西海道
(P.11)

ぶらりルート

■■■■ 本来の尚寧王の道ルート
(※現在は歩けません)

各ポイントへの所要時間



※所要時間は徒歩時の目安で個人差があります。

国指定名勝

県指定史跡

伊祖城跡 いそじょうせき



伊祖城跡（伊祖グスク）は、琉球国初期に栄えた英祖王父祖代々の居城で、地域では「イーजूグスク」などと呼ばれています。丘陵の北東部は所々に切石積みや野面積み

の石積み城壁の遺構が残っています。発掘調査が行われていないため、詳しいことは分かっていませんが、グスク時代の土器、中国製陶磁器などが発見されています。

国指定名勝 アマミクヌムイ 伊祖グスク

「アマミク」とは、琉球開闢神話に登場する国づくりの神で「アマミキヨ」などとも呼ばれます。

首里王府の資料（『おもろさうし』『中山世鑑』など）には天から降り立ったアマミクが各地に御嶽を造り、琉球の国土のはじまりとなったと伝わります。

「アマミクヌムイ」とはこれらの御嶽の総称で、南城市の久高フボー御嶽、斎場御嶽、那覇市の弁之御嶽のほか、伊祖グスクもその一つとして登場し、現在も沖縄特有の地形・植生からなる聖地の様相をとどめています。





旗立て

海岸が一望でき、戦前まで旗竿を立てる岩があったとされます。浦添の語源「うらおそい」を思わせる風景が広がります。

伊祖神社の神殿 (英祖の宮)

昭和初期に地域の有志によって、それまでグスク内に十箇所あった御嶽を一つに合せて祀ったものと伝わります。



城壁

参道の下に城壁の石積みが残っています。野面積みと切石積みの二種があるといわれ、グスクの築城技術の一端をみることができます。

シーサーヤー

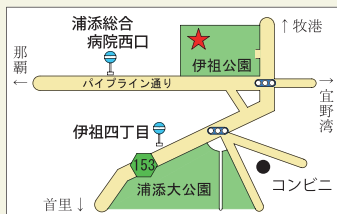
丘陵の南端に位置する拝所です。祠の中には、集落を守る二体の獅子が祀られています。伊祖地域では「シーサーヤー」と呼ばれています。



所在地 | 伊祖 3 丁目 48 番 (伊祖公園内)

アクセス | バス番号 55 系統「伊祖四丁目」下車徒歩 8 分

バス番号 99 系統「浦添総合病院西口」下車徒歩 10 分



県指定文化財 (建造物)

伊祖の高御墓 いその たかうはか



崖の中腹の洞穴を利用し、その前面を石積みで塞いだ墓です。墓口が広い古い形式の墓で、恵祖世主（英祖王の父）と 3 人の按司（地域の支配者）が葬られているといわれています。

近くに浦添貝塚があり、古代にはこの洞穴が住居であったと考えられています。

所在地とアクセスは浦添貝塚参照

県指定史跡

浦添貝塚 うらそえかいづか



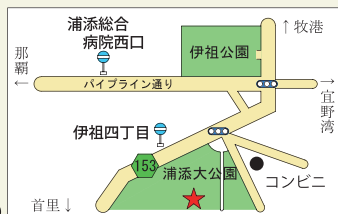
縄文時代後期から晩期にかけての遺跡で、およそ 4000 年前の土器や石器などが出土しました。奄美諸島でよくみられるタイプの土器がたくさん出土したほか、主に南九州で見つかる市来式土器が発見されており、沖縄と九州の交流の様子がうかがわれます。

伊祖の高御墓と浦添貝塚

所在地 | 伊祖 5 丁目 (浦添大公園内)

アクセス | バス番号 55 系統「伊祖四丁目」下車徒歩 5 分

バス番号 99 系統「浦添総合病院西口」下車徒歩 10 分



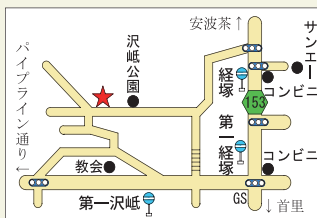
市指定史跡

浦添御殿の墓

うらそえうどうんのはか



浦添御殿は、第二尚氏第14代国王・尚穆王（在位1752～1794）の次男・浦添王子朝央を元祖とする家系で、近世琉球を代表する政治家や文化人を輩出した由緒ある家系でした。市内でも最大級のこの亀甲墓は18世紀末に造られたと推定され、巧みな石積みや墓正面に使われた巨大な石が浦添御殿の栄華を今に伝えています。



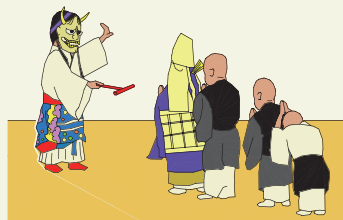
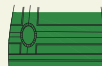
所在地 | 沢岬（沢岬公園となり）

アクセス | バス番号191,391系統「経塚」下車徒歩15分
バス番号47,87系統「第一沢岬」下車徒歩7分

市指定史跡

玉城朝薫の墓（邊土名家の墓）

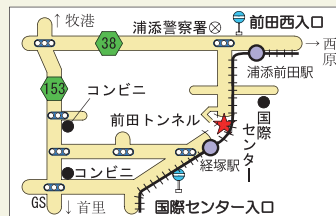
たまぐすくちょうくんのはか（へんとなけのはか）



朝薫作の組踊『執心鐘入』の一場面。『二童敵討』『銘苅子』『女物狂』『孝行の巻』と合わせ朝薫の創作した組踊は「朝薫の五番」とよばれ高く評価されています。

玉城朝薫（1684～1734）は琉球独特の歌舞劇『組踊』の創始者です。彼は中国からの冊封使を歓待するために踊奉行となって組踊を生みだしました。

この墓は庭の石積みなどが曲線を描くのが特徴的で、亀甲墓が成立していく17世紀後半から18世紀前半に造られたと考えられます。



所在地 | 前田（前田トンネル上）

アクセス | バス番号47,87系統「国際センター入口」下車徒歩9分
バス番号56,256系統「前田西入口」下車徒歩14分
モノレール「経塚駅」下車徒歩5分

市指定史跡 仲間の拝所群 なかまのはいしょぐん

字仲間の拝所は12ヶ所あり、集落内と浦添城跡内に点在しています。この内、文化財に指定されている4ヶ所の拝所は集落内にあり、字仲間の人々の生活や信仰において心の拠りどころです。



仲間樋川 なかまふいーじゃー

日常の飲料水としての利用を始め、産水・正月の若水などを汲む場所でした。『琉球国旧記』（1731年編纂）にはすでに樋が掛けられていたことが記されています。昭和10年（1935）には大規模な改修工事が行われ水タンクが設置されました。タンクからあふれた水は洗濯などをする「平場」を経て、農具や馬を洗う「ウマアミシ」に溜まるように造られています。

地頭火又神 じとうひぬかん

近世の仲間村の「地頭火又神」といわれています。地頭は琉球王国時代に間切や村を領地にした士族で、その就任や退任のときに拝んだのが地頭火又神です。



クバサーヌ御嶽 くばさーぬうたき

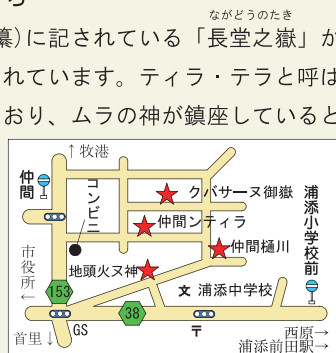
仲間集落発祥の地とつたえられています。『琉球国由来記』（1713年編纂）には「コバシタ嶽」と記されていますが、コバシタとはクバの木の下という意味です。

一帯はウガングーヤマとも呼ばれ、戦前は大木がうっそうと茂っていました。クバサーヌ御嶽には石で積み封じた神墓があったそうです。



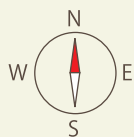
仲間ンティラ なかまんでいら

『琉球国由来記』（1713年編纂）に記されている「長堂之嶽」が仲間ンティラにあたると考えられています。ティラ・テラと呼ばれる拝所の多くは洞穴になっており、ムラの神が鎮座しているところと考えられています。戦前の祠は石積みの壁に赤瓦葺きだったようですが沖縄戦で失われました。



所在地 | 仲間2丁目

アクセス | バス番号55系統「仲間」下車徒歩5分
バス番号56,256系統「浦添小学校前」下車徒歩5分
モノレール「浦添前田駅」下車徒歩15分



牧港へ ウマチ毛 ぶらりルート

城下まちを歩く 仲間集落ぶらりルート



首里城以前の王統の居城である浦添グスクに隣接する仲間集落を歩くルートです。

浦添市の指定文化財である拝所や井戸などをめぐりながら歩くことができます。

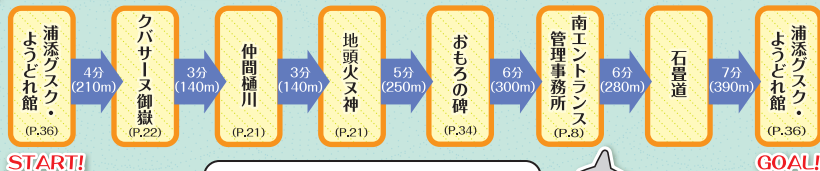


スタート地点の駐車場下にはグスク時代の遺跡(仲間後原遺跡)が埋まっています。



仲間集落ではおもろの碑をはじめ、多くの文化財に説明板がありますので理解を深めながら歩くことができます。

各ポイントへの所要時間



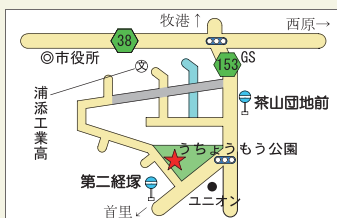
全部回ると60～70分ほど(約1.7km)

※所要時間は徒歩時の目安で個人差があります。

市指定史跡 **経塚の碑** きょうづかのひ



昔、ここに巣く妖怪が道行く人々をたぶらかしていました。
 16世紀のはじめ、日秀上人が金剛經にっしゅうしょうにん こんごうきょうというお経をかけた小石を埋め、その上に「金剛嶺」こんごうれいと刻んだ石碑を建て妖怪を鎮めたと伝えられています。また、大地震があってもこの場所は揺れなかったとされ、地震の際には「チョウチカチカ」「チョウチカ、チョウチカ」(チョウチカ＝経塚)と唱えるとき地震がおさまると信じられるようになりました。



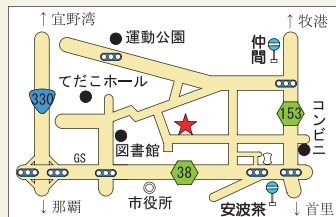
所在地 | 経塚 1 丁目 2 番
 (うちょうもう公園内)

アクセス | バス番号 191, 391 系統「第二経塚」下車徒歩 3 分

市指定史跡 **安波茶樋川** あはちゃふいーじゃー



『琉球国旧記』(1731年編纂)に「安波茶樋川」の記述があることとから18世紀の中頃には存在していたと推定されます。琉球石灰岩で造られた樋が当時のまま残されています。



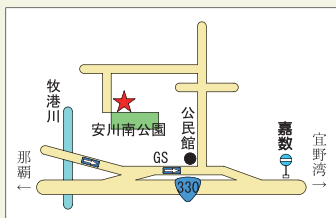
所在地 | 安波茶 2 丁目 5 番

アクセス | バス番号 55 系統「仲間」下車徒歩 6 分
 バス番号 55, 56, 191, 256, 391 系統「安波茶」下車徒歩 6 分

市指定史跡 **チチフチャー洞穴遺跡**
 ちぢふちゃーどうけつせき



全長がおよそ110mある鍾乳洞で、1500年～800年前の土器や貝殻などが出土しており古代の人々のすみかとして利用されていたようです。沖縄戦では避難壕になりました。



所在地 | 牧港 3 丁目 36 番

アクセス | バス番号 21, 88, 90, 98, 190 系統「嘉数」下車徒歩 9 分

市指定史跡

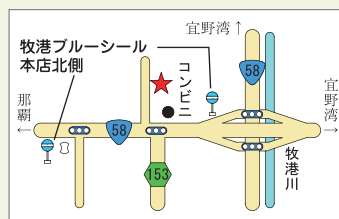
牧港テラブのガマ

まきみなと
てらぶのがま



地元ではティランガマと呼ばれる琉球石灰岩の自然洞穴です。内部は拝所で、洞穴の外の前庭は牧港^{とうん}の殿（祭祀場）と推測されています。

伝説によると12世紀後半に琉球に来た源為朝は、大里按司^{あし}の妹と結婚し男の子が生まれます。やがて為朝は浦添の港から船に乗り帰郷しますが、残された妻と子はこのガマで為朝の再来を待ちわびたともいわれています。それ以来この地は「待港^{まちなと}」と呼ばれ、転じて「牧港」になったということです。男の子の名前を尊敦^{そんとん}といい、後に王位に就き舜天と呼ばれます。



所在地 | 牧港5丁目7番

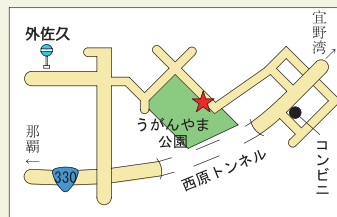
アクセス | バス番号23,28,99,228系統ほか「牧港ブルーシール本店北側」下車徒歩3分

市指定史跡

西原東ガーにしはらあがりガー



約600年前からあるとされる井戸で、現在の石積みは300年前の改築といわれています。飲料水のほか、産水や正月の若水などに利用され、拝所となっています。



所在地 | 西原4丁目36番

アクセス | バス番号56系統「外佐久」下車徒歩5分

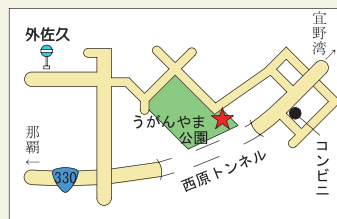
市指定史跡

西原洗濯ガーにしはらせんたく

ガー



昭和2年(1927)に新築された井戸で、衣類の洗濯、農具や野菜の洗い、水浴びなどに利用されました。



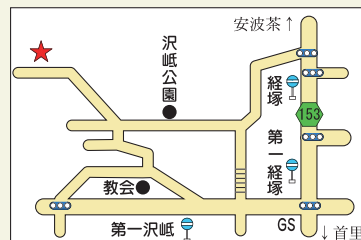
所在地 | 西原4丁目36番

アクセス | バス番号56系統「外佐久」下車徒歩5分

沢岬イリヌカー たくしいりぬかー



近世琉球では「手形入れ」という、野菜や魚介類などを納める税がありました。沢岬にはテナガエビ、川エビ、フナ、ウナギなどの食材の調達を首里王府から命ぜられていたといいますが、それが度々だったので、これらの生き物をここで飼って突然の命令に備えていたそうです。



所在地 | 沢岬 1 丁目 12-19

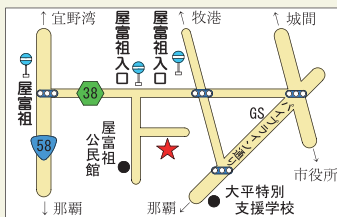
アクセス | バス番号 191, 391 系統「経塚」下車徒歩 15 分
バス番号 47, 87 系統「第一沢岬」下車徒歩 7 分

屋富祖の御願所のガジュマル

やふそのうがんじゅのがじゅまる



ガジュマルは琉球列島から南に分布するクワ科の常緑高木です。この木は屋富祖の殿(祭祀場)に生えているため、戦前は「殿ヌガジュマル」と呼ばれていました。樹齢は少なくとも100年を超えています。



所在地 | 屋富祖 2 丁目 25 番

アクセス | バス番号 55, 56, 191, 256 系統「屋富祖入口」下車徒歩 6 分
バス番号 23, 28, 77, 120, 223 系統ほか「屋富祖」下車徒歩 8 分

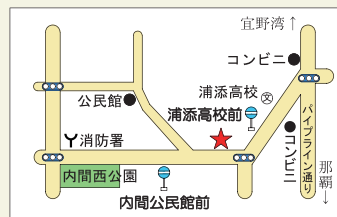
内間の大アカギ

うちまのうふあかぎ



アカギはタカトウダイ科に属し、東南アジア、ポリネシア、沖縄等に広く分布する熱帯樹です。

内間の大アカギの樹齢は推定でおよそ400年で、明治の頃から樹木の大きさに変化はないといわれます。



所在地 | 内間 3 丁目 28 番

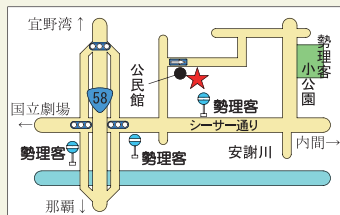
アクセス | バス番号 47, 87 系統「内間公民館前」「浦添高校前」下車徒歩 2 分

国選択文化財(無形民俗)

市指定文化財(無形民俗)

勢理客の獅子舞 じっちゃくのししまい

「コーレー具志堅」という人が伝えたと言われる獅子舞で、芸が非常に細かく、足の踏み込みが大きく勇壮であるのが特徴です。舞の種類は11種と豊富で、大きくは儀式的な「ジャンマー」、遊戯的な「モーヤー」に分けられます。旧暦8月15日に演じられています。



所在地 | 勢理客2-19-20 勢理客公民館

アクセス | バス番号23, 28, 77, 99, 120系統ほか58号沿い「勢理客」下車徒歩5分
バス番号47, 87シーサー通り沿い「勢理客」下車徒歩5分

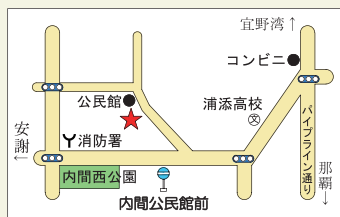
市指定文化財(無形民俗)

内間の棒 うちまのぼう

市指定文化財(無形民俗)

内間の獅子舞 うちまのししまい

獅子舞は400年ほど前に茶ぬちぬちまる貫太丸によって伝えられたといわれ、棒の発祥も同じ頃といわれます。獅子舞は雌獅子で芸が細かく勇壮です。棒は手棒とも呼ばれ勇壮活発な演技です。いずれも旧暦8月15日に厄払いと五穀豊穡・子孫繁栄を祈って行われます。



所在地 | 内間3-15-1 内間公民館

アクセス | バス番号47, 87系統「内間公民館前」下車徒歩1分

市指定文化財(無形民俗)

仲西の獅子舞 なかにしのししまい

伝承では今から約500年前から集落の行事として毎年旧暦7月15日と8月15日に演じられてきました。厄払いと五穀豊穡・子孫繁栄を祈る目的で行われています。雄獅子で頭が大きくて顔の表情がいかめしく、舞が力強いのが特徴です。



所在地 | 仲西1-3-11 仲西公民館

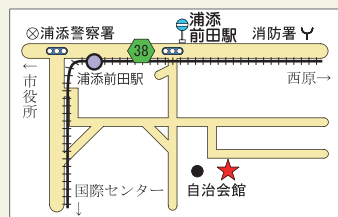
アクセス | バス番号23, 28, 77, 120系統ほか「第一仲西」下車徒歩10分

市指定文化財(無形民俗)

前田の棒 まえだのぼう

ムラの発展と子孫繁栄、豊年満作を祈願して行われています。戦前までは1年おきに旧暦8月に昼間は棒、夕方から夜にかけて村芝居が集落あげての行事として行われていました。

勇壮活発で独特なドラ鐘の打ち方によって演じられます。



所在地 | 前田1-28-7 前田自治会館

アクセス | バス番号56, 256系統「浦添前田駅」下車徒歩5分
モノレール「浦添前田駅」下車徒歩5分



おもろの碑

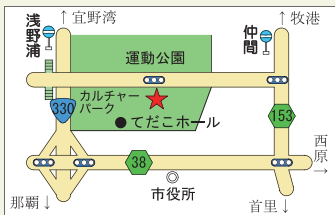
「おもろ」とは神にささげる歌だと考えられています。王府は1531年から1623年にかけておもろを記録し『おもろさうし』にまとめました。昭和・平成にかけて浦添に関わりのあるおもろを記した歌碑をゆかりのある土地に建てました。

①神酒が満ちあふれる豊かな浦添よ

運動公園メインゲート
向かいの碑

アクセス | バス番号55系統「仲間」
下車徒歩10分

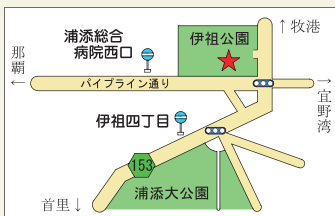
バス番号21, 88, 90, 98, 112,
190系統「浅野浦」下車徒歩
10分



②英祖王は夏は神酒、 冬は御酒をもる 伊祖公園の碑

アクセス | バス番号55系統「伊祖四
丁目」下車徒歩7分

バス番号99系統「浦添総
合病院西口」下車徒歩7分

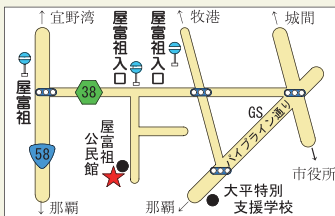


③親富祖の大屋子が貢ぎ物をささげる

屋富祖公民館の碑

アクセス | バス番号55, 56, 256系統「屋
富祖入口」下車徒歩6分

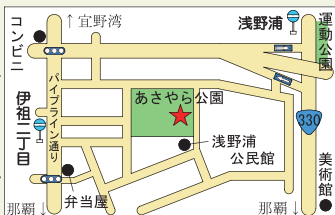
バス番号23, 28, 77, 120,
223系統ほか「屋富祖」下車
徒歩8分



④アマミキヨがたてた 伊祖グスク 字伊祖・あさやら公園の碑

アクセス | バス番号99系統「伊祖二
丁目」下車徒歩5分

バス番号21, 90, 98系統ほか
「浅野浦」下車徒歩7分



⑤仲西のすぐれた真人

仲西公民館の碑

アクセス | バス番号23, 28, 77, 120,
223系統ほか「第一仲西」
下車徒歩10分

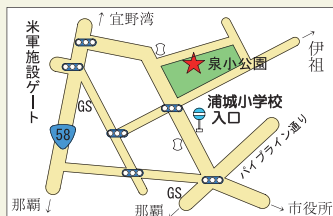


⑥城間の長老が

神女たちと

字城間・泉小公園の碑

アクセス | バス番号55, 56, 191, 256,
391系統「浦城小学校入口」
下車徒歩2分

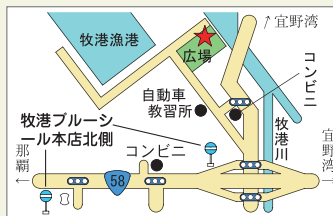


⑦宝庫のとびらを

開いた察度王

牧港漁港の碑

アクセス | バス番号23, 28, 55, 99, 228
系統ほか「牧港ブルーシ
ール本店北側」下車徒歩13分

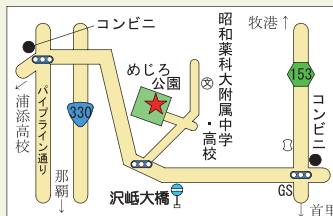


⑧国中に鳴り響く

沢岬太郎名付け

字沢岬・めじろ公園の碑

アクセス | バス番号47, 87系統「沢岬
大橋」下車徒歩6分

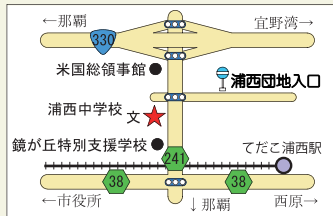


⑨浦添ぐすくの

王をたたえる

浦西中学校正門前の碑

アクセス | バス番号56系統「浦西団
地入口」下車徒歩5分

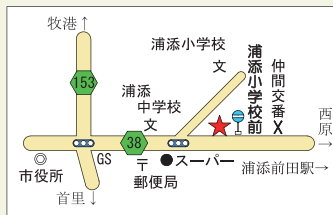


⑩黄金寄り集まる

根の国浦添

仲間交番前の碑

アクセス | バス番号56, 256系統「浦添
小学校前」下車すぐ
モノレール「浦添前田駅」下
車徒歩5分



浦添市美術館 うらそえしびじゅつかん

県指定文化財(工芸品)

琉球漆器 5 件

市指定文化財(工芸品)

琉球漆器 39 件

市指定文化財(絵画)

琉球交易港図屏風ほか 4 件

市指定文化財(古文書)

向姓家譜(邊土名家)

16 世紀から現代までの優れた琉球漆器コレクションを中心に、日本や周辺諸国の漆器を収蔵する漆芸専門の美術館です。常設展以外にも様々なテーマ・内容の企画展を開催しています。



所在地 | 仲間 1-9-2

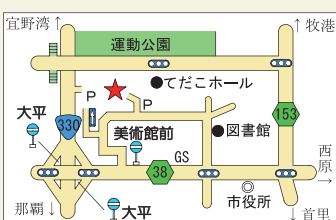
電話 | 098-879-3219

開館時間 | 午前 9 時 30 分～午後 5 時
金曜日は午後 7 時まで
(入館は閉館 30 分前まで)

休館日 | 月曜日・年末年始

アクセス | バス番号 55, 56, 191 系統ほか「美術館前」下車徒歩 10 分

バス番号 21, 88, 90, 98, 112 系統「大平」下車徒歩 12 分



常設展 | 一般 300 円 (200 円) 65 歳以上 240 円 (160 円)
入館料 | 大学生 200 円 (130 円) 高校生以下無料
※ () 内料金は浦添市民割引



浦添グスク・ようどれ館 うらそえぐすく・ようどれかん

国指定史跡「浦添城跡」のガイダンス施設です。浦添グスクと浦添ようどれの発掘調査での出土品や、戦前のパネルなどを展示しています。また浦添ようどれ西室(英祖王陵)内部を実物大で復元し、県指定文化財の「浦添ようどれ石厨子」(P.10)のレプリカ(模型)も展示しています。



所在地 | 仲間 2-53-1

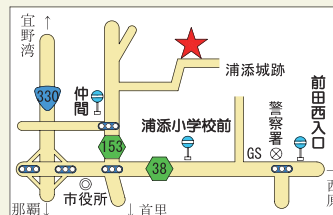
電話 | 098-874-9345

開館時間 | 午前 9 時～午後 5 時

休館日 | 月曜日(祝日の場合は開館)・年末年始

入館料 | 大人(高校生以上) 100 円・
小人(小中学校) 50 円

アクセス | バス番号 55 系統「仲間」下車徒歩 10 分



国立劇場おきなわ こくりつげきじょうおきなわ

国重要無形文化財(芸能)

組踊くみおどり

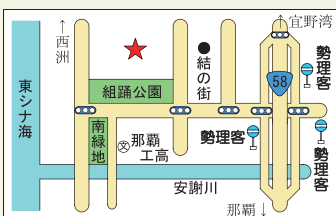
沖縄の伝統芸能の公演や伝承者の養成、調査・研究の拠点となる施設です。公演鑑賞だけでなく資料展示室(無料)の見学や図書・記録映像の閲覧(映像は有料)ができます。



所在地 | 勢理客 4-14-1

電話 | 098-871-3311

アクセス | バス番号 23, 28, 77, 87, 99, 120, 223 系統ほか「勢理客」下車徒歩 10 分



浦添市歴史にふれる館 うらそえしれきしにふれるやかた

発掘調査で出土した遺物や寄贈された民具などを収蔵する施設です。展示室では貝塚時代から現代まで、幅広い時代の資料を見ることができます。収蔵庫の一部も見学できます。



所在地 | 港川 512-11

電話 | 098-876-1295

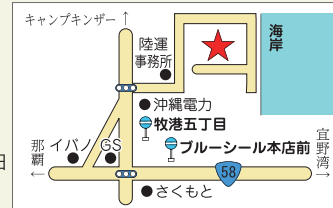
開館時間 | 午前 9 時 30 分～午後 5 時
(入館は午後 4 時半まで)

休館日 | 土日祝日・年末年始・慰霊の日

入館料 | 無料

アクセス | バス番号 23, 28, 77, 120 系統「ブルーシール本店前」下車徒歩 15 分

バス番号 391 系統「牧港五丁目」下車徒歩 13 分

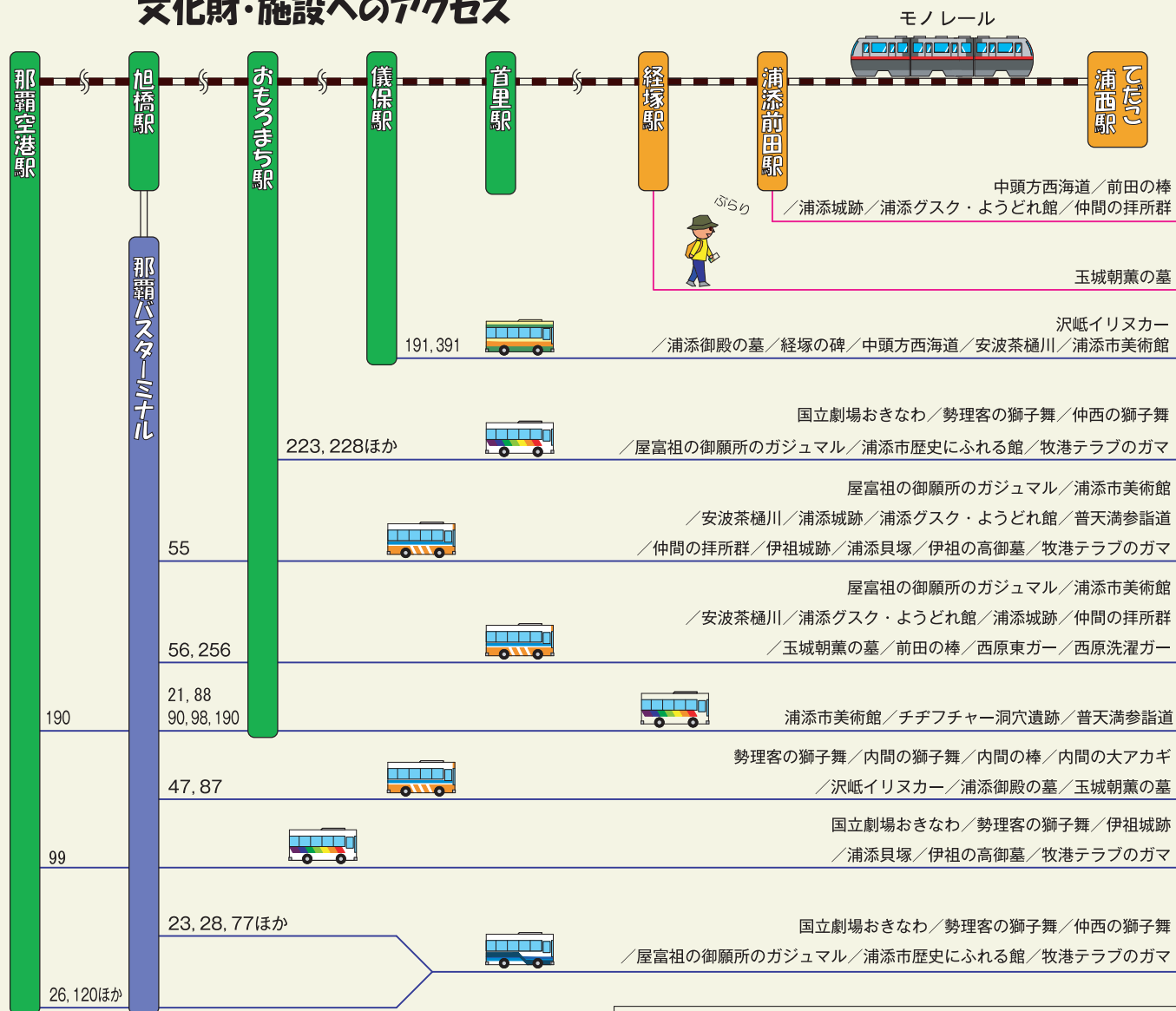


浦添の歴史

時代		出来事・遺跡	
日本			
縄文時代		【チチフチャー洞穴遺跡】 【浦添貝塚】	
弥生	弥生～平安時代並行期	【嘉門貝塚】	
古墳 ↓ 平安		【チチフチャー洞穴遺跡】	
鎌倉時代	12世紀後半	【牧港テラブのガマ】	
	13世紀初頭	この頃【伊祖の高御墓】造営か	
	1229	英祖、伊祖グスクで誕生【伊祖城跡】	
	13世紀末～14世紀初頭	浦添グスク築城【浦添城跡】	
	13世紀後半	【浦添ようどれ】造営 浦添グスクの西に極楽寺創建	
室町時代	グスク時代・古琉球	14世紀末～15世紀前半	浦添グスク、規模が大きくなる
		1372	中山王察度、中国に朝貢
		1429	尚巴志、三山統一
		16世紀初頭	【経塚の碑】建立 尚維衡、浦添グスクに住む
		1531	『おもろさうし』編纂開始（～1623年）
安土・桃山時代	グスク時代・古琉球	1589	浦添出身の尚寧、王位に就く
		1597	首里・浦添間の道を整備し、浦添グスクに竣工記念碑を建立 【中頭方西海道】 【浦添城の前の碑】
江戸時代	近世琉球	1609	薩摩侵入、浦添グスクと龍福寺焼ける
	近世琉球	1620	浦添ようどれ改修、尚寧没

江戸時代	近世琉球	1644	国王の普天満宮参詣始まる 【普天満参詣道】
		1671	間切再編により現在の浦添市域の原形ができる
		1713	『琉球国由来記』に【クバサーヌ御嶽】 【仲間ンティア】の記載
		1731	『琉球国旧記』に【仲間樋川】 【安波茶樋川】 【西原東ガー】の記載
		1734	玉城朝薫没、石嶺の一寸墓へ葬る
		18世紀末	【浦添御殿の墓】造営
	明治時代	1805	玉城朝薫洗骨、前田の墓へ移葬 【玉城朝薫の墓】
		1872	琉球藩設置
		1879	沖縄県設置
		1908	浦添間切から浦添村へ
昭和		1927	【西原洗濯ガー】築造
		1945	沖縄戦により浦添ようどれなど破壊
		1970	浦添村から浦添市へ
平成		1989	浦添城跡、国の史跡に指定
		2012	中頭方西海道及び普天満参詣道、国の史跡に指定
		2018	伊祖グスク、国の名勝「アマミクヌムイ」に指定
令和		2019	沖縄県（那覇市・浦添市）のストーリー『琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」』が日本遺産に認定 ストーリーの構成文化財は那覇市14件、浦添市10件、共同5件
		2022	向姓家譜（邊土名家）日本遺産に追加認定

文化財・施設へのアクセス



路線バス運行に関する情報はこちら

沖縄県バス協会：098-867-2316

Web サイト「のりものNAV I Okinawa」



※数字はバスの系統番号（バス会社問わず）

各文化財へのアクセスの詳細は各ページを参照して下さい。

NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会

「うらおそい歴史ガイド友の会」による案内と説明で浦添の文化財をめぐってみませんか？

お問い合わせ

時間 | 9:00～17:00 (休：月曜日 [祝日の場合は対応可]・年末年始)

電話 | 098-874-9345 (浦添グスク・ようどれ館)

料金 (目安) | 「浦添城跡他、周辺史跡案内コース (1～10名)

1 時間1,500円、2 時間3,000円 ※団体要相談

※料金や参加人数、コース内容等は事前にお問い合わせ下さい。

うらそえ
ぶらり浦添
歴史のさんぽ道



令和 5 (2023) 年 3 月発行 (第 6 版)

編集・発行 浦添市教育委員会

〒901-2501 沖縄県浦添市安波茶一丁目 1 番 1 号

TEL:098-876-1295

上左：浦添城跡

上右：王陵「浦添ようどれ」“な一か御門” (復元)

中左：組踊「二童敵討」 提供：国立劇場おきなわ

中右：朱漆山水人物箔絵東道盆 (浦添市美術館所蔵)

下左：中頭方西海道 (安波茶橋)

下右：内間の獅子舞

背景：浦添城の前の碑